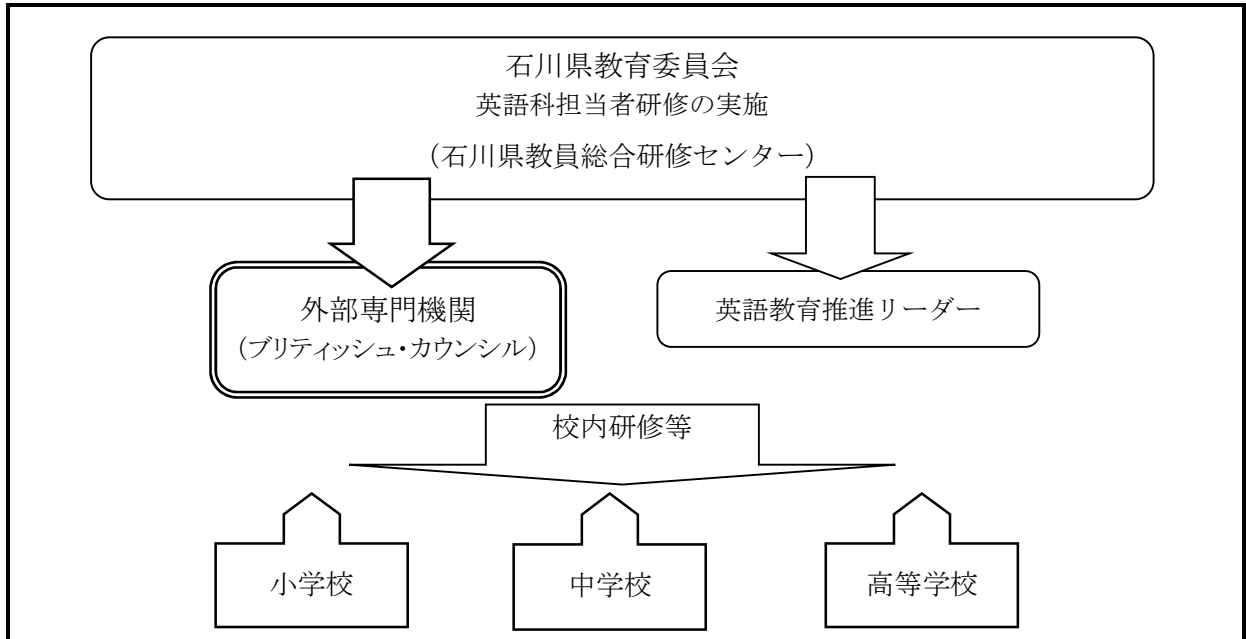


石川県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

① 求められる英語力を有する英語担当教員の全英語担当教員に占める割合

	<2019 目標値>	<2019 達成値>	<2020 目標値>	<2021 目標値>	<2022 目標値>
【中学校】	50%	44.1%	55%	60%	70%
【高等学校】	94%	92.6%	96%	98%	100%

2019年度の達成値は、中学校では44.1%であり、国の目標値には達していない状況である。高等学校では92.6%であり、国の目標値に達している。これまで、あらゆる機会を捉えて、英語担当教員に自己研鑽を推奨し外部検定試験の受験を促すとともに、研修等において、高度な英語力の獲得と指導力の向上を図ってきており、その成果がまずは高等学校の達成値に表れたと考えられる。今後もこれまでの取組を継続し、中学校教員の英語力も向上させたい。

② 求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合

	<2019 目標値>	<2019 達成値>	<2020 目標値>	<2021 目標値>	<2022 目標値>
【中学校】	60%	48.8%	60%	60%	60%
【高等学校】	50%	49.2%	55%	60%	60%

学校訪問や研修等において、生徒の4技能（5領域）を総合的にバランス良く育成することができるよう、指導と評価について改善を促すとともに、生徒の能力を適切に把握するために、外部検定試験を積極的に活用するよう働きかけており、中学校、高等学校とも国の目標に近接している状況である。今後も、教員が英語で授業を行うことを基本とし、言語活動の充実を図るなどの授業改善を継続的に行うことによって、生徒に実践的な英語力を身に付けさせるとともに、パフォーマンステストの実施方法や評価方法の工夫について、研修や学校訪問等を通じて指導・助言し、高等学校でも国の目標達成を実現したい。

③ 「CAN-DO リスト」形式で設定した学習到達目標の整備状況

	<2019 目標値>	<2019 達成値>	<2020 目標値>	<2021 目標値>	<2022 目標値>
【中学校】					
〔設定〕	100%	100%	100%	100%	100%
〔公表〕	60%	47.6%	80%	100%	100%
〔達成状況の把握〕	80%	61.9%	90%	100%	100%

【高等学校】

[設定]	100%	98.1%	100%	100%	100%
[公表]	100%	28.3%	100%	100%	100%
[達成状況の把握]	100%	52.8%	100%	100%	100%

中学校では、2016年度の全英語担当教員を対象としたセミナーで、自校の学習到達目標（CAN-DOリスト）を持ち寄り、指導と評価の一体化についての協議を行った。また、小中学校の英語教育強化拠点校を中心に、小中連携を踏まえた学習到達目標の作成に取り組んできた。高等学校では、以前より学習到達目標の整備状況は良好であったが、2018年度に学習到達目標のより効果的な活用法に関する講演会を開き、一層の活用を促した。これらの取り組みにより、県内の全ての中学校において学習到達目標が整備されており、高等学校においても整備率は高水準を維持している。

今後は、児童生徒の実態や新学習指導要領の方向性を踏まえて学習到達目標の改善を図るとともに、学習到達目標の公表及び達成状況の把握が確実に行われることを目指し、計画的に取り組を進めていく。

④ 授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合

〈2019 目標値〉 〈2019 達成値〉 〈2020 目標値〉 〈2021 目標値〉 〈2022 目標値〉

【中学校】	100%	92.8%	100%	100%	100%
【高等学校】	60%	59.6%	75%	90%	100%

中学校においては、研修や学校訪問等での指導・助言が功を奏し、授業における生徒の言語活動は比較的良好に行われている。小中学校英語担当教員等を対象として2019年度に実施したフォーラムでは、言語活動の充実をテーマとしたパネルディスカッションを行って教員の意識高揚を図ったところであり、言語活動の質の向上に繋げていきたい。

高等学校においては、前年度よりも割合は上昇しており、県の目標値をほぼ達成している。外国語指導助手（ALT）、ICT等を活用するとともに、ペアワーク、グループ活動等を取り入れ、生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりする言語活動に取り組む授業を展開するよう指導してきたことが功を奏しているものと思われる。今後も、授業の狙いが達成されるような授業形態や言語活動を工夫するよう粘り強く指導していく。

⑤ スピーキングテスト、ライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況

中学校、高等学校ともパフォーマンステストは実施されているが、県の目標値には達していない。これまでも様々な機会を捉えて評価の改善の必要性について訴えてきたが、パフォーマンステストに対する英語担当教員の意識をさらに高めていく必要がある。2019年度に高等学校英語担当教員等を対象として実施したセミナーでは、発信系技能の適切な評価やそれに基づく指導の改善について周知したところであり、高等学校での指導と評価の改善を促進するとともに、高等学校で得られたノウハウを中学校教員に還元する方策を検討したい。

⑥ 授業における、英語担当教員の英語使用状況

〈2019 目標値〉 〈2019 達成値〉 〈2020 目標値〉 〈2021 目標値〉 〈2022 目標値〉

【中学校】	90%	90.9%	95%	100%	100%
【高等学校】	60%	45.7%	70%	80%	90%

学校訪問や研修を通じて、英語で授業を行うことの必要性和具体的な方法について指導・助言を行ってきた結果、中学校では県の目標値を上回ったが、高等学校では数値が前年度より若干低下した。

今後も、教員が英語を使って生徒の言語活動を積極的に行わせている良いモデルを示すなどして授業改善を一層促し、全ての教員が原則、英語で授業を行うことを目指す。

⑦ 域内の小学校における、教員の英語指導力の向上

文部科学省との連携・協力による放送大学「小学校外国語教育教授基礎論」講座等を各学校に周知し、指導力の向上を促している。各学校においては、英語の早期化・教科化に向け、「小

学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」「英語教育推進リーダー中央研修DVD教材」等を活用した校内研修の充実が図られてきている。

今後も、各学校においては、専科教員や中核教員等を中心に、学校全体として指導力のさらなる向上を図るとともに、研修や学校訪問等を通じて、これから求められる授業づくりについて、適切な指導・助言に努めていく。

- ⑧ 域内の全ての学校における、研修実施回数、研修受講者の人数及び全英語担当教員（小学校において全教員）に占める割合

〈2019 目標値〉 〈2019 達成値〉 〈2020 目標値〉 〈2021 目標値〉 〈2022 目標値〉

【小学校】

[実施回数] 20回 26回 20回 20回 20回

[受講者数] 600人 532人 350人 350人 350人

【中学校】

[実施回数] 20回 15回 15回 15回 15回

[受講者数] 500人 118人 150人 150人 150人

【高等学校】

[実施回数] 20回 14回 15回 15回 15回

[受講者数] 260人 125人 150人 150人 150人

2019年度は、全ての校種において、ほぼ予定どおり研修を実施することができた。今後とも、新学習指導要領の円滑な実施に向けて、各校種において充実した研修となるよう内容を工夫し、教員の英語力・指導力の向上を図っていく。

(3) 研修の体系と内容の具体

- 研修名 ① 「自分の考えや気持ちを伝え合う授業づくり～授業力 up～」
 ② 「生徒の発信力を高める授業づくり～中学校英語～」
 ③ 「生徒の発信力を高める授業づくり～高等学校英語～」

- 対象者 ① 小学校教員・英語専科教員
 ② 中学校英語担当教員
 ③ 高等学校英語担当教員

- 目的 ① 学習指導要領の理解を深め、主体的・対話的で深い学びを意識した授業を構想する力を身に付けるとともに、若手教員に指導・助言できるようにする。
 ② 英語科の「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の授業づくりについて理解を深め、実践・評価する力を高める。
 ③ 「話すこと」「書くこと」を中心に4技能統合型の授業づくりについて理解を深め、実践する力・評価する力を高める。

受講予定者数

- ① 希望者・英語専科教員
 ②③ 英語担当教員（3年目・6年目・中堅教諭研修受講者は必ず受講する）
 希望者も受講可能

外部専門機関及び研修協力校との関わり等

- ・ブリティッシュ・カウンシルに対し、外国人講師による英語漬けの集中研修を依頼する。

②③ 1日×2日間

計画の具体

- ① 2020年度より実施（新設）。
 ②③ 2019年度より実施（新設）。

